

2.3

文書型宣言

文書型宣言

- 文書型宣言
 - どのDTDを使用するかを宣言するもの
 - DTDを使用しない場合は記述しない
 - 記述方法は内部サブセットか外部サブセット
- DTDの役割
 - XML文書の構造を定義する
 - 企業間データ交換などで必要
- 妥当なXML文書
 - Valid XML document
 - 文書型宣言が記述され、そのDTDの定義に従っている
 - DTDに従っていない場合は妥当でないXML文書
(XMLの記述文法に従っているならそれは整形XML文書)
 - 文書型宣言のないXML文書は妥当にはならない
(XMLの記述文法に従っているなら整形XML文書)
 - 妥当性検証を行い妥当性違反があった場合はエラー (error) が報告されるが、整形違反とは異なり、必要に応じてその後の処理を続けてよい

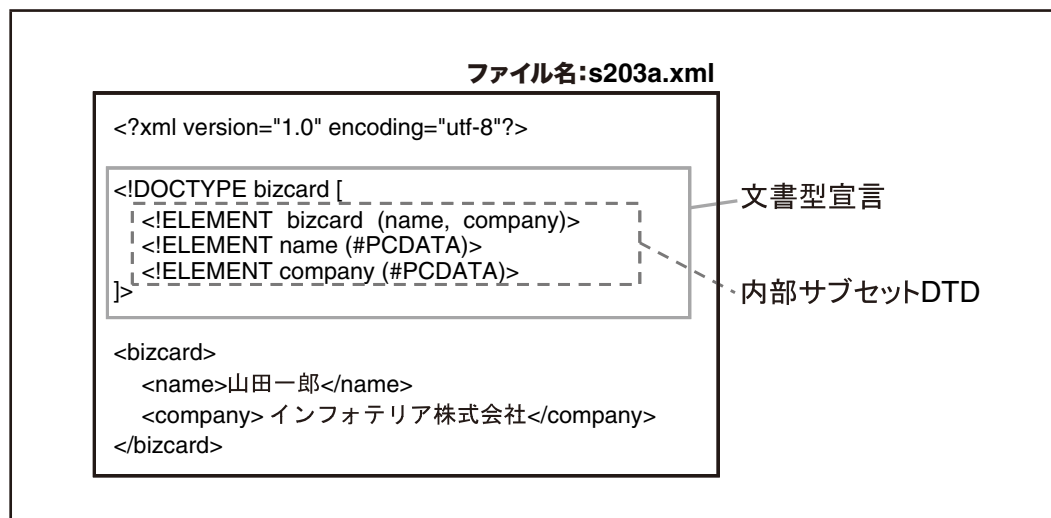
■ 文書型宣言

文書型宣言は、XML文書の文書型定義（構造定義）を行う部分です。文書型定義はDTD（Document Type Definition）と呼ばれ、DTDの記述により、XML文書の構造を定義できます。つまり文書型宣言はどのDTDを使用するかを宣言するもので、DTDを使用しない場合は文書型宣言を記述しません。

文書型宣言の記述方法は、「内部サブセット」による方法と、「外部サブセット」による方法があります。

内部サブセットDTD

文書型宣言内に直接DTDを記述する方法です。



外部サブセットDTD

DTDが外部に存在する場合に、その参照先を指定します。

